

雲嶋良雄名誉教授著作目録抄

昭和二四年（一九四九年）

（書評） ヨーダー著「人事管理と経営に於ける労資関係」、（経営評論、一二月号別冊）。

昭和二五年（一九五〇年）

（書評） レスリスバーガー・ディクソン共著「経営と労働者」、（一橋論叢、第二三卷、第二号）。

昭和二六年（一九五一年）

（書評） レスリスバーガー著「管理と職場士気」、（一橋論叢、第二六卷、第二号）。

昭和二七年（一九五二年）

（解説） ヨーダーの人事管理論（平井泰太郎編、『経営学辞典』、ダイヤモンド社、に収録）。

昭和二八年（一九五三年）

（論説） 人事部門のスタッフ的性格（古川栄一編、『経営管理組織』、東洋経済新報社、に収録）。

（書評） フェイヨル著「経営および一般の管理」（一橋論叢、第二九卷、第三号）。

昭和二九年（一九五四年）

（論説） 人事相談制度（personnel counseling）の本質（ビジネス・レポーター、第一卷、第四号）。

昭和三年（一九五八年）

- (論説) アンリ・フェイヨル（一橋論叢、第三九巻、第四号）。
- (論説) 人事相談制度の本質と機能（漢利重隆編、『人間関係論』、税務経理協会、に収録）。
- (論説) 雇用テストの本質（ビジネス・レビュー、第五巻、第三号）。

昭和三四年（一九五九年）

- (書評) 鈴木英寿著「ドイツ経営学の方法」（一橋論叢、第四二巻、第二号）。
- (論説) アンリ・フェイヨルの管理学説（一橋大学、商学研究年報、第三巻）。

昭和三五年（一九六〇年）

- (論説) 企業者論の展開——その回顧と展望（一橋論叢、第四四巻、第四号）。
- (論説) オリバー・シェルドンの管理学説（一橋大学、商学研究年報、第四巻）。
- (論説) 労資関係と人間関係（ビジネス・レビュー、第八巻、第一号）。
- (論説) 経営管理学説（古川栄一編、『経営学総論』、青林書院、に収録）。

昭和三六年（一九六一年）

- (基本文献解題) W. Thoms, Betriebs-Verwaltung—Die Verwaltung als Leistung des Betriebs（一橋論叢、第四五巻、第五号）。

昭和三七年（一九六二年）

- (解説) ドイツ経営学説（高宮晋編、『体系経営学辞典』、ダイヤモンド社、に収録）。

昭和三八年（一九六三年）

(論説) 人間的経営指導の意義(古川栄一編、『経営者と人間指導』、同文館、に収録)。

(論説) 経営管理学史の課題(生産性、昭和三八年一月号に収録)。

(論説) 経営者論の経営学的意義(一橋大学、商学研究年報、第七卷)。

昭和三九年(一九六四年)

(著書) 『経営管理学の生成』同文館。

(論説) 経営管理学の発展(古川栄一編、『経営学』、経林書房、に収録)。

(書評) 山中篤太郎編「中小企業研究二五年」(一橋論叢、第五一卷、第二号)。

(論説) 「経営学は御用学問ではない」(近代経営、第九卷、第二二号、に収録)。

昭和四一年(一九六六年)

(著書) 『経営管理学の生成(改訂版)』同文館。

(論説) アメリカ経営学の現状に関する一考察(古川栄一博士還暦記念論文集、『現代経営学と財務管理』、同文館、に

収録)。

昭和四二年(一九六七年)

(論説) わが国経営学の動向——いわゆる「日本の経営学」の提唱をめぐって(ビジネス・レビュー、第一五卷、第

一号)。

(解説) 藻利重隆責任編集、『経営学辞典』(東洋経済新報社)の編集委員の一人として同辞典の企画に参加、I「経営

学総論」のA「経営学の発展」の3「アメリカにおける経営学的研究の発展」の(四)「管理論的経営学」ほか約

五項目にわたって執筆。

昭和四四年(一九六九年)

(論説) 人間関係論(高宮晋編、『現代経営学の系譜』、日本経営出版会、に収録)。

(学界展望) 経営学の現代的課題(ビジネス・レビュー、第一六卷、第四号)。

昭和四五年(一九七〇年)

(論説) 労資関係の変質と労務管理の構造(ビジネス・レビュー、第一八卷、第二号)。

(解説) ドイツにおける経営学の発達(高宮晋編『新版体系経営学辞典』、ダイヤモンド社、に収録)。

昭和四六年(一九七一年)

(論説) パーナードの管理者職能論——その特質と経営学的意義——(一橋大学、商学研究年報、第一四卷)。

昭和四八年(一九七三年)

(論説) 人間指導と企業管理——D・マグレガーの所論を中心として——(一橋論叢、第六九卷、第二号)。

昭和四九年(一九七四年)

(編著) 『現代経営学の基本問題——古川栄一博士古稀記念論文集——』同友館。

昭和五二年(一九七七年)

(論説) 管理職能と人間指導(一橋論叢、第七八卷、第四号)。

昭和五三年(一九七八年)

(論説) リーダーシップと管理職能(税経セミナー、第二三卷、第一四号)。

昭和五七年(一九八二年)

(著書) 『経営管理論』同文館。

(論説) 終身雇用制度の変化と連続性(一橋論叢、第八七卷、第三号)。

(解説) 一橋経営学の系譜(一橋大学創立百年記念、一橋大学学問史、に収録)。

昭和五八年(一九八三年)

(論説) 経営学の現状と問題点(一橋論叢、第八九卷、第四号)。

昭和六一年(一九八六年)

(論説) アメリカにおける巨大企業と金融支配——D・M・コッツの所論を中心として——(一橋大学、商学研究年報、

第二六卷)。